

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	Lelien		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2026年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2026年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団での遊び・体験活動が多く、子どもたちが安心して参加できる環境	季節の行事や身体を使った活動を通じて、体験型の支援を重視	さらに活動の質を高めるために、職員間での「支援のねらい」の共有とフィードバックの仕組みをより明確化していく。
2	子どもとの信頼関係づくりを大切に丁寧な関わりが徹底されている	連絡帳や送迎時の対話など、家庭とのつながりを意識した日々の関係づくり	保護者との連携をさらに深めるため、イベント開催などを通じて家庭との関わりを深めていく。
3	発達段階に応じた個別支援が可能	子ども一人ひとりの状態に合わせて活動の順番や内容を柔軟に調整	子どもの発達段階に応じて、個別療育と小集団活動の時間配分や支援内容を見直し、より一人ひとりにフィットした支援を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動後の記録や振り返りが日々の業務に追われて不十分になることがある	事務作業なども多く十分な時間が取れていないことがある	支援終了後の記録・振り返りをチームで分担し、業務負担の軽減を図る
2	職員の経験差によって支援の質にばらつきが生じる場面がある	療育の専門性を高める研修や支援の振り返りが十分に行えていない	職員がオンライン研修の視聴できる環境を整え専門性をより高められるよう工夫していく。
3	利用者の年齢差があるため、活動の幅広さに対応する工夫が引き続き求められている	小集団活動に集中すると、個別の対応時間が取りづらくなる場面がある	年齢や発達段階ごとに活動パターンを用意し、より柔軟な対応を強化